市議会モニターとの意見交換会（要点筆記）

開催日時	令和７年３月１４日（金）１３時３０分～15時００分
場　　所	光市議会本会議場
出席議員	森戸芳史、小林隆司、井垣伸子、大田敏司、河村龍男、清水祐希、田中陽三、田邉学、仲小路悦男、中村譲、中本和行、仲山哲男、新見浩明、西村慎太郎、林節子、藤川みゆき、萬谷竹彦、早稲田真弓、
市議会モニター	古賀和人、関野広史、深來登
事務局員	小田哲之、松尾真、山本正実、西優、起本一生

１　開　会

議長あいさつ　森戸議長

次　　第
１　開　　会
（議長あいさつ）
２　意見交換
３　開　　会
（副議長あいさつ）

２　意見交換

○関野広史さん

すみません、僕は皆さんの活動が全く分かってない状態でこの場に来てしまったんですが、今、国政もそうですが、いろいろと盛り上がっていて、気になることがあるんですが、漠然としたことを聞いても大丈夫ですか。

皆さんお一人ずつが、マニフェスト的なものを掲げられたことで、この１年間でどれぐらいまで到達したのかって、一人一人聞いても大丈夫なんですかね。

おそらく僕ら市民からしたら、皆さんがどういう内容の仕事をして、１年間でどういうことを到達したか、全く分からないんです。なので、それをズバリ聞いてみたいなと思って、時間が大変でしょうが、お一人ずつ、選挙の時にこういうことを言って、この１年でこれだけやりましたみたいなのをお聞きしたいと思います。

○中村議員

難しいところで、どれぐらいという、測るものが見当たらないんですけど、私は子育てと

あとスポーツ推進とか、いろいろもっと他にもあるんですが、あとは教育の方とかも力を入れて進めていきたいというところで、一般質問をそちらに特化して、進めてきたつもりでございます。

市民の方々にも分かりやすいように、伝えているつもりでございますし、議事録に残るようになるべく、分かりやすいように質問させていただいております。

○河村議員

私は分かりやすい市政と、それから市民の親睦交流について、ということで活動を普段させていただいておるんですが、何パーセント到達したかというのではなくて、私が活動する場において、そのようにさせていただいております。

結果として、４万８千人の市民の何割の方に、そういうことが浸透したかというのは、なかなかお答えが難しいところですけど、私の普段の活動はそういう活動をしているというふうに、ご理解をいただいたらと思います。

○井垣議員

私は 11 月に就任して以来まだ間もないので、なかなか活動というか、ないんですけど、現在２回目の議会でして、１回目は自分が体験した選挙の投票権、投票のことについて疑問があった点を一般質問でさせていただきました。

今回の一般質問では、ビーチの活性化について、うまく市政が回っていないのは、縦割行政のせいじゃないかという疑問を持ちまして、小さいところではなくて、そもそも論のところを質問させていただきました。

まだその程度で、何割達成とかそういうのはないんですけど、やることがあまりわからないので、いつも 100%ということで頑張っているつもりです。

○早稲田議員

マニフェストの内容には、様々なことを書いておりますが、当面自分が気になっているところは、高齢者の方々の生活の支援とか、認知症とか、介護の問題等が気になっております。それで、先日それについての一般質問をして、どのような支援策があるかについて伺ってみました。

また、もともとＩＣＴとか、子どもの教育のところに、自分は経験がありまして、子どもたちのこれからのデジタルの勉強についても興味を持って、なんとか光市の子どもたちが成長して、それを活用できるようにしていくことを提案していきたいと思っております。

○小林議員

私は企業から議会の方に出ているところもありますので、労働者の声とか会社側の声をし

っかりと聞いて、中小企業の支援、それを通じて光市を発展させていく、そういうところに主眼を置いて仕事をさせていただいています。

その上で、到達できたかどうかというのは別にして、今はさまざまな中小企業支援のいわゆる「ＤＸファーストステップ支援事業」とか、「光に住んで、働こうやー！」支援事業、こういうものもスタートしていまして、これらを活用することによって、企業が少しずつ発展をしていく、そういうところが大事だと思っていますので、引き続き労働者の声をしっかりと聞いて、それをしっかりと果たしていきたいと思っています。

○新見議員

私は 11 月に当選いたしまして、まだ半年経っていないような状況ですが、地域の課題について、地域の皆様からいろいろなお話をお伺いしまして、一般質問等では、地域課題における課題解決の進捗状況とか、そういったことを質問させていただいております。

その他、地域の方で出ている問題について、お話を聞かせていただいて、こういった問題があるんですがということで、各窓口等で把握されているかどうかというような、地道な形で活動しております。

○西村議員

私は公約としてずっと、「便利な街光市の実現」というのを大きな柱に掲げて活動しているわけなんですけど、これには議会というか個人としての活動、あるいは議会力を行使して、議会全体として取り組んでいくこととか、いろんなものがあるので、パーセントで進捗というのを表すのは難しいように思います。

そういう高齢世代の方にとっての便利、あるいは私たちの働く世代の便利、若年層とかですね、そういった人にとっての便利というものを、作っていくためにはどうしたらいいのか考えながら、活動しています。

例えば私、若いですから、デジタルツールに強かったりとかですね、移住定住、あと経済的なお話だったり、光市でこれから発生してくる有休地をどういうふうに活用していくかとかですね、あるいは生涯学習など多岐に取り扱っている話題があるので、そういうところから、議会として包括的にどうしたらこの街がもっと便利な街になっていくかというのを常に意識しながら、活動しているというふうに、ご理解をいただけたらなと思います。

○田中議員

１年ということで言われたんですけど、なかなか１年で結果を出すっていうのは難しいのかなと思います。私は今、４期目になっておりますので、今までの取り組み、私だけの取り組みじゃなくて議会力を発揮して、また執行部の皆さんも頑張って形になったものっていう視点で言うと、これは議会としても取り組んだ部分ですが、

不登校支援の団体との意見交換会をやって、教育支援センターの立ち上げ等、これは議会も皆さんとの力を合わせて実現をさせて、今も拡充に取り組んでおります。

それから、公共交通の拡充については市議会議員になって１期目の時から、デマンド交通の導入っていうのを取り上げてきたんですけど、前年度、三井地区の方で実証実験が実施されたり、あと、バスやタクシーに乗る人を支援して、公共交通を支えてほしいっていうことが形になっております。

あと議会改革という部分で、開かれた議会を目指して取り組んでおります。このモニター制度が始まった時の初代の特別委員会の委員長をやっていたんですけど、その中で今YouTube で議会を見ることもできますけど、そういったことに取り組みながら、市民の皆さんに関心を持ってもらえることにも取り組んでおります。

それと、みんなをつなぐ光になると言いましたけど、共創の街づくりというのが私の一番の大きなテーマで、市民と一緒になって橋渡ししながら、活性化にも取り組んでおります。ちょうど去年、一昨年と「ひかりの魅力発信・発見支援事業」というものができて、市民団体が活動する時に 20 万円ほど予算がつくようになったんですけど、そういったものを後方支援しながら、街の賑わいづくりにも一緒に取り組んでいます。

そういったことで、種をまきながら取り組んでおりますので、またどういったことをしているのか見ていただけたらと思います。ちょっと何パーセントというのは種をまいているところもあるので、難しいかなということでお許しいただけたらと思います。

○森戸議員

議員としては「安心・安全」、「人口減少対策」、「都市計画」の部分に力を入れて、今、６期目の 21 年目でございますので、相当いろんな提案をしてきました。

一番はですね、平成 30 年の時に「西日本豪雨災害」が起こりました。私は島田駅の近くに住んでいますので、自分のところも浸水しましたし、500 件近い浸水被害が出ましたので、特に「安心・安全」、「島田川」に関連することに一番力を入れてきたところでございます。

今回、議長ということで、議会改革に関して、「ハラスメントの防止」・「議論の活性化」・「ＩＣＴの関連」・「広報広聴の見直し」等いろんな項目を掲げておりますが、議会の議論が活性化するように、これからも取り組みを進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○萬谷議員

私はですね、常に「子どもたちに教育のチャンスを平等に」というのが、一番根底に流れております。その中でやはり、親の経済格差で子どもの教育に差が出るというところを何とかしたいなというのが、12 年前に議員になった時からずっとやってきたことでございます。

あと、一般質問の２回に１回はですね「瀬戸風線」と「光駅の整備」というのをずっとやってきましたが、ようやく５年後ぐらいにそれが目指せるなというところまで来ました。これも議員というのは、トランプ大統領みたいに、大統領令を出せ

ばいいというものでなくて、やはり仲間というか他の議員たちと議論して、提案していかないといけません。ということで、やっぱり私がマニフェストで上げたからできたんじゃなくて、皆でやったんだというのがありますので、そこは個人の力ではなく、全体の力でというのを理解していただければと思っています。

その辺では、教育に関しても状況は日々変わってきています。ゴールはないので、ここまで来たなと思ったら、まだ上がありますので、何パーセントできたかというのは、わからないんですけど、しっかりとこれからも社会情勢を見ながら、取り組んでいきたいなと思っております。

○田邉議員

私は政党議員なので、一義的な目的は、「住民福祉の向上」という形で議員になっております。365 日市民相談をいつでも受けたまわっておりますので、市民要求の実現ができた時は 100%、いわゆる市の一般事業においての市民要求が実現できたときに 100%と思っております。

なので、これからもそういった形で、議員である以上は市民要求、住民福祉の向上のために議会で発言してまいりたいと思っております。

○中本議員

直近でいろんなことを考えてまいりました。少子高齢化社会になったというのが非常に現実味を帯びた中で、どんなまちづくりをすればいいかということに、ある程度集中しながらやってまいりました。

まず一つは「農業問題」、「中山間地域の課題」、それからもう一つは、光丘高校が光市所有の教育環境になりましたので、「浅江中学校が光丘高校に移転」という大きな課題をいろいろ指摘してまいりました。それからもちろん財政的に厳しい状況でありますので、財政問題も含めて、また児童数が減少したことがすごく教育環境に影響しておりますので、そのあたりの「今後の学園構想」についても、いろいろ指摘をしてまいりました。

一番の大きな課題は平成 30 年 7 月 7 日の朝方、島田川が氾濫しまして、多くの方が犠牲になって、大変な状況でありました。島田駅前も全部床上浸水になった状況がありますので、これはやっぱり市民が住んでいる安心安全を守るためにはどうしたらいいか、島田川の浚渫を含めて、いろんな課題に取り組んでまいりました。

たくさんいろいろ課題がありますが、やっぱり我々は選挙で選ばれ、市長も選挙で選ばれましたので、お互いに緊張感を持ちながら協力して、いい街づくりをやっていかないといけないということに主眼を置いてやってまいりました。

○林議員

私は大和地区に住んでおりまして、町議会議員から市議会議員と、市民の皆様方のお力をいただいて、現在に至っているわけでございます。特に高齢化が進んでいる大和地域にとっては大変な状

況でありますが、市民の皆様のお声とか、また子どもを育てていらっしゃるご家族の方々のお声も聞きながら、活性化をどのようにしたらいいかということに、市の方としっかりとタッグを組んで、いろんなことに取り組んでまいりました。

現在はご承知か分かりませんけど、岩田駅前から病院のあたり、池のあたりまで、まちづくりが大きく変わっていっている状況でございます。支所も図書館大和分館もコミュニティセンターに一緒に入って、大きな地域づくりに、活性化を図っていただいております。住宅も県営住宅と市営住宅を合築して、山口銀行の後ろに建てて、全室満室ということで皆さんに入っていただいて、活性化に向けて、県から市から、皆で取り組んでいます。

大和地域では小中一貫校ということで、この４月から小学校は４校になりましたけど、３校を閉鎖して１校に、大和小学校として小学生の皆様が通ってこられます。また、10 年度になりますと中学校の方に、小中一貫校として、中学生と小学生が一緒になって作られる学校ができます。これも私たちの母校であるので、しっかりとサポートしていきたいと思っております。子どもたち、そして地域の皆様方の活性化にしっかりと取り組んでいる次第でございます。

○大田議員

私は、モットーとして、「医療と福祉のまちづくり」というのを掲げています。医療というのは大和総合病院、光総合病院が充実して、皆さんのために、医療行為ができるように一生懸命、これからもまた、今までもずっと言っております。

また福祉というのは、随分範囲が広いんですが、それに伴っていろんなことを市の方にしてもらうために、市民の声を、市政に届けさせてもらっています。それが、すぐに答えが出るというもんではないんですが、それに伴って、信念のもとに、ずっと曲げないで、これからも頑張っていこうと思っております。

○仲山議員

私自身がよそからの移住者でございまして、この街が大変好きになりましたので、この街の取り柄をしっかりと生かして、「移住定住」もしくは「関係人口を創出」していくというようなことに取り組んできているところです。

それから議員になる前から、防災士として活動しておりまして、「防災力の強化」というところについては、振り返ってみますと、一般質問で一番取り上げたことが多い分野に、結果としてなっております。

その他、多々ありますけど、この街の取り柄として、「海産物」とか、それから「地産地消」、「環境が大変良い」ということなんかも、今後も維持していくために取り組んできているところです。

「上関の原子力施設」についても、生命、生活、財産を守るという意味でも大変憂慮されることですし、希望を持ってまちづくりをするという上でも、大変大きな影を落としますので、これについても反対の立場で取り組んでまいりました。

どれぐらいのことができたかという評価は、なかなか難しいところですけれど、少しずつ改善がなされているなというのを８年やって、ようやく少しずつ感じられてきたかなと思っ

ています。
　それから、先ほどおっしゃった方もいらっしゃいましたけど、やっぱり議会力として議会全体で発揮しなければならないというところに関しては、私もそのとおりだと思います。

○清水議員

　私は市議会議員として、市民の代表としまして、市長、執行部への質疑や要望などをしております。それともう一つは、市議会議員で、何かを執行できる権限がありませんので、市議会議員としての公約というのはありません。しかし、政治家として私がやっていきたいということはあります。ですので政治家としては、私は光市をより良い街にする、街づくりをする、そういった政治家になるというのが、私の政治信条でございます。その上で市民の皆さんからの声も聞きながら、私として、この光市に何が必要か、何ができるかという活動をしております。
　私は「教育」と「健康」、そして「観光」、この３つの柱で、街づくりをするべきだという政治信条があります。その上で様々な日々活動しておりますが、これは私が政治家を辞めるまでは、100%になることはない、常に時代の変化に合わせて、追い続けていくことだと思っております。なので、どれだけできたかというパーセンテージは未知数ですが、市議会議員に帰り咲いてからは、日々の活動の中で、皆さんの税金をもらって活動していますので、仕事としては私は 100%やってるという自負はあります。

○藤川議員

　私は新人として、今回が２回目の本会議になります。１回目の一般質問では、「駅前のコンパクトシティ」、「里の厨」など、様々な大和の問題について取り上げさせていただきました。２回目は、いろんなサービスをしていく上で、そもそも論というか、財政の部分で質問させていただきました。
　それで、自分の中での選挙に出た時に、キャッチフレーズとして挙げたのが、「小さな光を集めて大きな光」という言葉なんですけど、その意味は、やはり小さな光市民の小さな能力であったりとか要望であったりを集めて、しっかりと行政に届けて、大きな光にするイメージで活動しております。
　議員になってから今まで、困りごとの相談もいくつか受けているんですけれども、もともと長い間、警察官をやっていたこともありまして、そういったところで、一つずつ問題を解決してあげられるように、市民の皆さんの力になれたらなと思って活動しております。
　これから自分の中でやりたいことは、やはり人口減少もありますので、「雇用問題」だとか、自分自身の経験を踏まえて、「Ｕターン」を促進していきたいと思っております。
　あとは近々では、やはり高齢者の方々、身体の不便の方々のために足問題ということに関しては、ちょっと深掘りして、スピード感を持って、何とかしたいなと考えております。やっぱり自分のキャッチフレーズもあるように、皆さんの声をしっかりと、行政の方に届けていきたいと思います、

○仲小路議員

市民の方のいろんな悩み、また困ってらっしゃること、それを一つ一つ何とか解決しようと思って頑張っております。子どもさんのことから仕事のこと、生活のこと、あるいは高齢者の皆さんのこと、また葬儀のことまでありますけど、そういういろんな悩みについて、何とか解決しようと思って頑張っております。

おそらく、まだ数パーセントしか達成できていないかなと思いますけど、頑張っております。

○古賀和人さん

私は市議会モニター制度の導入当初から携わっており、今年で６期目になります。先程からのお話を聞いていて思ったんですが、「開かれた議会」という意味を議員の皆さんはどのように考えておられますか。先ほどの質問にも、議員の活動が分かりづらい、また意識しづらいというような表現がありました。こうした状況を踏まえると、市民に分かりやすく丁寧に知らせることや教えてあげることなどが、「開かれた議会」の中には、盛り込まれているのではないでしょうか。これまで光市議会をずっと見てきましたが、頑なに扉を閉じたままの状態ではないかと思います。なぜ、こういう事を言うかというと、先日、ある方々から伺ったんですが、選挙の前に議員に話を持って行くと、分かった分かったと言ってくれるが、当選した暁には知らん顔をするということでした。こんな声を聞くと、何のための市議会議員なのかと思います。市民の皆さんからの負託を受けて議員になられている以上は、市民のために精一杯働くことが市議会議員だと思います。

色々と見てきましたが、いちばん大事な光市が直面している課題として、人口減少の問題があります。また、先ほどのお話の中でもありましたが、ＩＴ化の問題もあります。確か、数年前に議会のデジタル化を提案させていただきましたが、その後全く改善されておりません。もう一つ言わせてもらいますと、モニター制度導入当初は、数百件の意見・提言書が出されていましたが、年々減少し、今は特定の人しか提案されていないように認識しています。正直に言いますと、現在は提案する気になれないんです。なぜかというと、返ってこないんです。結局、面倒くさいことなどに対しては、応えないというふうに捉えているからです。そういう事がないようにお願いしたいところです。

それから、昨夏にあいぱーく光で実施した市議会報告会では、参加者が８人しか集まりませんでした。なぜ、８人しか集まらなかったのかという問題を考えると、「市民の声を素直に受け入れて聞いてくれない」ということに起因しているように思います。今、困っている市民一人ひとりに寄り添う市議会になることが求められていると思います。

また、光市が抱えている問題の一つに「農業政策」があります。光市は自然に恵まれており、豊富な水源もあります。これらを活かさない手はないと思います。「農業政策」をより強力に進めるため、ＴＶ等で農業のアルバイトをＰＲしてはいかがでしょうか。また、先程話があった、「ふるさと納税」についても、商品に限らず、例えば冠山の公園のオートキャンプ場に市内外の多くの方をお招きしたりして、光市の自然を活用したらどうでしょうか。

それから、光市にとって一番大事な課題は、「人口減少」の問題であり、これをいかに止め

るかが、光市の活性化につながってくると思います。現在の光市の人口が約 47,000 人で、年々減少しています。一方、お隣の下松市では減少してないっていうのは、様々な努力の結果だと思います。せっかく隣にこんな市があるんだから、参考にしていただき、いいものは吸収し、活用されたらいいと思います。議員の皆さん、どうでしょうか。

○早稲田議員

現在、「開かれた議会」という事で頑張っていますが、まだ市民の皆様が納得のいくところまで至っていない現状があります。特に昨年度の市議会報告会では、参加人数が少なく、大変反省しております。今年度からは、議会の皆でやり方を模索し、たくさんの市民の方に来ていただけるような場を作っていきたいと思います。

○清水議員

先ほどおっしゃられたように、本市にとって人口減少は一番大きな問題だと思います。この問題は、光市だけでなく、山口県、日本も人口減少の問題は今に始まった問題ではなく、約 20 年も前から始まっていて、見過ごせない状況にあります。今年生まれた子どもや昨年生まれた子どもの状況で、光市の 10 年 20 年後の人口がだいたい予想できます。あとは、移住者を増やしていくということで、それをどうしていくかが課題だと思います。

先程ご提案のあった、「成功しているお隣の下松市の真似をしたらどうか」ということについては、おっしゃるとおりだと思います。ただ、下松市と光市で状況は異なりますが、良いところは真似していくことも必要です。

我々議員としては、例えば、子どもを増やそうとしたとき、光市に移住してきた人には児童手当を３倍出すことで、移住者は増えるかもしれません。ただ、一議員の意見だけではなかなか実現できません。なので、一般質問や委員会質問など、二元代表制の中でやるべきことをやっていくことも必要だと思っています。

光市議会の 18 人の議員、それぞれやりたいことがあると思いますが、私が考える人口減少対策は、本市の教育を山口県一にすることで、近隣市町から人を集めることです。とはいえ、人口減少を止めることは大変難しいと考えます。人口減少の何が悪いのかというと、人口が減少することで、産業がなくなってしまう、また必要なサービスが受けられなくなってしまうことです。では、そういった課題にどのように対応していくかというと、先ほどおっしゃたように、デジタル化だとかＡＩを活用して、人口が減少しても税収が減っても、満足した市民サービスが受けられるように、それを両輪としてやっていかなければいけません。こういった活動を今後もやっていきたいと思います。

○西村議員

私もことあるごとに、随所にデジタル化を取り入れていますが、先ほど話がありましたけど、人が減っていく以上、何かをデジタル化していかないと、サービス自体がどんどん衰退していきます。このような観点から、議会もペーパーレス化ということですが、今、

生成ＡＩというものが台頭してきている中で、光市もＤＸについては専用の課を設けて取り組んでいます。ちょっとカタカナ言葉とか英語が並ぶのですが、ＯＣＲという読み取りの部分であったり、その読み取ったものを、これまでは人が手で打ち込んでいたところを、ＲＰＡというものを使うと、自動でデータが反映させるシステムがあり、光市でもそれを導入しています。

そういった人件費の他に、キントーンというノーコードツールのアプリがありますが、これは職員の皆さんが色々と考えて、それをプログラミングを組むことなく、様々な業務を効率化するためのツールがあります。そういった技術を、若手を中心に使える世代が増えています。そういった小さいことから、日々の繰り返しの作業を少しずつ効率化していくことで、市民サービスのさらなる向上につながると思います。今後、光市は書かない窓口が随時導入されていきますが、人口が減少する中で市民サービスを維持していくためには、デジタル化は必ず必要になってきます。

それに加えて、今はまだ発展途上で使える人が少ないですが、ＡＩの生成ツールというものを使うことができれば、周知、発信の部分、移住定住、企業誘致、そういったところもＡＩを利用して推し進めている民間の企業がたくさんあります。そういったノウハウをしっかり吸収した上で、デジタル推進課と緊密に連携を図りながら推進していきたいと思います。

先般の一般質問でも、ＡＩを使うことで簡単に知りたいことが分かるシステムを提言させていただきました。デジタル化は、様々な可能性を秘めていますので、今後も最新の情報をしっかりと取り入れながら、そういった視点から執行部と議会が緊密に連携し、今後も進めてまいりたいと思います。

○清水議員

おっしゃるとおり、僕も農業は本当にやらなきゃいけないというところで、ご存知のとおり、光市では本当に、どんどん畑をやらない方が増えてきて、さまざまな問題が出て来ています。本当に、農業を振興していくには農業で儲かる、僕も 12 月の一般質問でやりましたけど、本当に農業で儲かるっていう、まずはこのモデルを作らないといかんと思ってるんです。そのモデルを作るために補助金だったり、今、光市もいろんな補助金のアイテムがありますけど、それがちょっと使いにくかったりとか、それがあってもやっぱり減ってるっていう現状があるので、もっともっとこれは改善していかなきゃいけないと思っています。

だからもう我々としては、農業の方からの話もしっかり聞きながら、どうやったら農業で儲けることができるのかっていうところを、しっかりと議員としてだけじゃなくて、民間の一市民としてもですね、アンテナをしっかり広げて、オール光市でやっていかなければ、このままなかなか農業の振興っていうのができないと思っています。

まずはそこの儲かるモデルを作ってから、そこにどんどん付随して、若い人たちがどんどん入っていただいたりとかして、それが一つの産業にもっともっとなっていくという、まずその最初のきっかけを作らないと、今のままじゃいけないので、そこに何かくさびを打たないとなということを思っています。

○藤川議員

前回、一般質問の方で、ふるさと納税についてちょっと勉強させていただいたので、少しお話ししますけれど、産物だとかも光の限りある資源を最大限に使って還元するという財産という意味でも、物としてのふるさと納税もあるんですが、ただ、デジタル化ＤＸ化だとか、そういったところにも付随するんですけれど、行政全般にかかってくる人件費だとか、技術の向上を考えて、今、企業版のふるさと納税で人材派遣だとか、そういった新しい取り組みをされている企業もあります。

企業の方も最大で９割の税額控除ができるというサービスなので、そういったところもぜひ利用していただいて、経費削減プラス行政のサービスの向上につながるような、ふるさと納税もどんどん提案させていただいています。

○古賀和人さん

先ほどのデジタル化の問題で、私が３年前にも言ったと思いますが、どこの市でもやってない、例えば見える化という中で、皆さん議員の方がいろいろご質問される時に、パネル等を持ってやりますよね。その時に、あそこの演台で見せるよりは、大型スクリーンを使った形にして、皆さんにはっきり見える、どんな問題についてもちょっとした時に、大型スクリーンを使うということについて提案したことがあったと、皆さん記憶にあると思います。ですが、なかなかその辺は予算の問題とかということもあるでしょうが、やっぱり光市は、独特の市政で運営してるんだっていうところを、やってみてもいいんじゃないかなと、私は思うんですよ。

だから先ほど言われたように、見える化というか開かれたというところでも、そういう、パッとスクリーンに映し出して様子がわかる、誰が見てもわかるというような、そういう一つの見える化、これもやっぱりデジタル化の前進だと思います。それなくして、今のＤＸどうのこうのという議論、ＡＩもそうですけど、まずは、簡単なところからスタートをして、皆さんにも目で見て訴えて、わかるようにされたらどうかなというのを提案したい気がするんです。

あとはもう一つ、教育の問題にもかなり力を入れていることもわかっております。小中一貫の問題もそうだと思うんですが、また光市の魅力というのは、産婦人科がございますし、「おっぱい都市宣言」これも長い期間使っているキャッチフレーズですけど、ぼちぼち「おっぱい都市宣言のまち光」から脱した新しいキャッチフレーズで、もっと呼べる、あるいは光市に住んでもらえるようにすべきだと思います。

だって、私は下松に住んでいながら光市に来るという人が、結構いらっしゃるという話も聞くんですよ。だから、今までは私が子供の頃においては、光はベッドタウンだというような意識があった街だったはずなんです。それで、人口も５万５千とか、そういう時代もありましたけど、５万を切って急速に落ち始めていることを考えた時に、やっぱり皆さん、光の魅力を失っている方が多いんだろうと思います。

僕はやはり、光の魅力をもっと発信してもらう仕組みづくりというのが大事だということで、せっかくの光のそういう二つの海を持っている、良さ、綺麗、こういったものを利用する、こういったものの価値をもっと幅広く広める、そういったものを重ねながら、さっきお

っしゃったような、新しいふるさと納税の仕組みをつくる、例えば牛島の方をうまく活用して、これは夢ですが、あそこにロッジをつくる、ある程度そんな形で、もっと市が開発費を出して、もっと人を呼べるような仕組みというのを、真剣に考えてもいいのかなと、個人的に考えています。いかがでございましょうか。

○森戸議員

ＩＣＴの部分から、パネルを使った一般質問等のお話がございましたが、予算的な制約がありますので、実現には至っていません。しかし、今回の議会の中でも個人的なパネルを使いながら、また皆さんに分かりやすいように、資料も配布をされていたと思います。そういう、予算の制約がある中でも、それぞれの議員が工夫をしながらやっているところだと思います。

今回つくづく思ったのは、そういったものを使って、分かりやすく伝えることも大切なんですが、一番は、発する言葉を磨くというところだと思います。なので、そういうものに頼らないでも、発言の表現というか、伝えていくようなところを磨くところが一番大切かなというふうに思いましたので、そういう点に気を付けながら、議会の運営も進めていきたいと思っております。

あと、ちょっと先に戻りますけど、市議会報告会等での参加が少なかったという点もございましたが、今後はいただいた意見をきちんと議会の中で議論をして、政策実現に向けていけるような、そういうサイクルを今一度作っていきたいなというふうに思っていますので、今回の高校生との意見交換会を受けて、今そういうふうな取り組みに、特別委員会の中で変更をかけているところでございますので、また今後を見守っていただきたいというふうに思います。

○古賀和人さん

今の高校生の意見交換会について、ちょっと我々の仲間で、いろいろと打ち合わせした状況の中で、ぼちぼち中学生を対象にした意見交換会を実施されたらどうなのかなという話がありました。最近の中学生もだいぶ大人になっておりますし、これからやっぱり、光市に住むということに対しても、現実性を持った考え方、意見というのを結構持っている生徒が多いと思います。そういう生の声を聞く機会というのも大事じゃないかなと思いますので、今までやっておられる高校生の意見交換会とはまた別に、中学生を対象にした意見交換会とかをやったらどうかなという提案でございますが、いかがでございましょう。

○司会、仲小路議員

ちょっと時間の関係もありますので、先に深來さんにお願いして、時間がありましたら、また、戻りたいと思います。

○深來登さん

私は皆さんに、これがこうでああだという質問はいたしたくないというか、するつもりはございません。私は実は九州の出身でして、高校を卒業して八幡製鉄に入社しました。４月に入社して４ヶ月ほど研修をしたところで、８月に光製鉄所を作るんで出向しろよと言われて、実は昭和 30 年に八幡製鉄光製鉄所ができた時に、出向してここに参りました。ですから、八幡製鉄光製鉄所の中においては、初めての高校生の従業員だというように、私は自負しております。

当時は八幡製鉄所から３人議員の方が出られて、武田から２名ほど出られて、計５名は企業の議員さんでまとまってというようなやり方をしていたようです。そういった時にまだ、光と大和とは別々でして、光は光の議員の選挙があって、大和は大和町の議員の選挙がありました。大和町の議員選挙のときは、光から何人か応援に呼び出されたこともあります。

それからいろいろなことがありまして、どんなことがそれから起こったかというと、合併ということが起こりました。光と大和が合併して今年で 20 年ですね。合併の時に、合併特例債というお金が出るんで、そのお金でずっとやってこられて、浅江中学校が、光丘高校の後に移転するということで、合併特例債の財源はなくなりますよ、ということになっているはずなんです。これで使い終わるということです。じゃあ、そういう合併特例債という特別な金を使い込んだ後に、全部使い込んだだけのメリットが全部出てますか、解決されてますかというと、決してされてないように、私には思います。光駅の問題、それから市役所の建て替え、これもまだ残っているんですね。

それで、昨年の 10 月の選挙で、新しく市長にはなったけど、特例債みたいな余分なお金っていうのがあるんですかと聞かれたら、ないですよね。じゃあ、今の市長さんがどうやって、どのお金で、どの部分を改善していこうかというような時に、そういう特例債がなかったら、どうやっていくのか、非常に危機感を覚えているわけです。それは今の市長さんに味方するわけじゃないですけど、あれだけの得票数をとって市長になられた方ですから、これから何期かお勤めになるだろうと思います。その間に、いろんなことを改善されると思うんですけど、それに関わる金が本当にあるの、どうして出すのと言った時に、一番手っ取り早い方法として、皆さんと執行部の方々が、もっと建設的な意見を出し合って、こういう主なところはやってください、だけど、小さなところ、細々した問題については、市議が市民と相談しながら解決していきますから、というようにしたらどうかなと思うんです。

これは、今から４年間、勤められる皆さんの責任だと思います。今期初めて当選された方もおられます。この方々には、この間の３月議会の時もあったんですけど、もっと光市の歴史を知ってから、質問してくださいと言いたいと思います。現状だけを見て、損得をどうのこうのというよりも、そこまでたどり着いた歴史というのが必ずあるはず。何についても、島田の温泉についても、それから束荷のお店屋さんもですね、小さな田舎の所に、楽しいものができたらいいなという、市民の思いでやっとできたものなんです。あそこの温泉場でも、光市の中部の憩いの場所から温泉が出るからと言ってお願いして、やっと市民の温泉場ができたんです。それはやっぱり、皆さんが嘆願して色々勉強されて市に言って、市長が動いてできてきたものなんです。その過程というのを知らないで、現状だけを見てですね、これでどうなんだというような、言い方をされるよりも、もっと勉強していただいて、そして、質問に立っていただきたいと思います。

それからもう一つ言いたいのは、質問するのに、私みたいに原稿なしでパッと言えるようにしておいてください。原稿を持って、回答まで持って、原稿を読みながらやるような、心が映っていない、心が本当に乗っていないような質問の仕方というのはやめていただきたい。これはもう古い方はさらっとできますけど、今度入られた方々はそういう勉強もしておいていただきたい。

そして最後に、皆さんがこれからやることに対してのお願いを、６つほど挙げますので、皆さん頭の中に入れておいていただきたいと思います。

これからの光市は、住んでよかったと市民が思う光市とは、どんなものなんですか、どんな街なんですか、これを自分たちで考えていただきたい。

それから、若者が集う環境は、語り合う場所は、どこにあるんですか。これがなければ、若者は寄ってきません。ぜひ、これを考えとっていただきたい。

それから、出産育児に適した街とは、これは産婆さんというか、産婦人科はあるけど、それから、小学校１年になるまでの間の幼児の育成の仕方をもっと温かく考えて、市議として勉強していただきたいと思います。

それから、市の労働条件はどうですかというのが一つあります。これは、この４月から新日鉄光ステンレスって書いてあるのが、日本製鉄という名前に変わります。これは、全社一斉に変わります。もう一つ面白い話は、アメリカのＵＳスチールとの合併の問題とか、鉄鋼を 25%の関税に引き上げるというような大きな問題が響きますと、私どもの光で造っているものが、どんどん売れなくなっていきます。これに対してどうなるのか、というのも勉強しておいていただきたいなと思います。

それから義務教育の未来はどうなんですか。今、浅江の学校まで小中一貫校になるというところまで来ました。次はどこなんですか、室積なんですか、島田なんですか、光井なんですか、といった時にどういう案があるんですかというのは、勉強をしておいていただきたいと思います。おそらく、次は室積になるかと私は考えておりますが、小学校一校に対して中学校一校の島田中学校は、どう運営されていくのか、これも心配です。おそらく、一校一校の統合というのは、ちょっと難しいかなと思います。この辺も勉強していただきたい。まだ残されている室積と光井と島田を一貫校にするはどうすればいいのか、どれだけの金をかければいいのか、というのもあるかと思います。これを一つお願いいたします。

それから、最後になりますが、老後の生き方、長生きの方法は、老後の未来というのはどんな楽しいものがあるのか、元気な老後、これがどうやればできるのか、百歳体操とか、いろいろなことで福祉の方々がお手伝いいただいておりますが、元気で長生きをしていただきたいと思います。老人ホームにどんどん入っていくんじゃなくて、元気で寄り合って話し合いながら、元気でいろんなゲートボールとかなんとかできるような老後を、皆さんが指導しながら作っていっていただきたいと思っております。

この６つについては今後の問題として、それぞれの考えは違うと思いますけど、絶対、頭の中に入れておいていただきたいと思います。

○萬谷議員

合併特例債に関しましては、確かに期限があって、上限があってということで、もう使えないというのはあります。ただ、それよりはちょっと有利ではないんですが、その都度、国が何パーセントか負担し

てくれるというような特例債等も出てますので、それを一生懸命兼ね合わせながらやっていこうかなと思っています。

だから、例えばこの市庁舎を建て替えるにしても、約 100 億円弱ぐらいはかかるんじゃないかというふうに言われてましたので、この 100 億円というお金を市議会議員だけで話して何とかできるというわけではありません。やっぱりそこは国とも県とも話さなきゃいけないかなと思ってますので、その辺はやっていきたいと思っています。

あと、いろいろあったんですけど、原稿を読むような心のないようなことをしないでほしいというのも、私どもも基本的には原稿は書いておりますし、執行部と打ち合わせもしております。でも、いかに原稿を読まずに、皆に語りかけるように読むかとか、やっぱり政治家という立場で言葉というのが重要になってきますので、その辺もしっかりと各市議が勉強していくべきだと思ってます。今、いろいろと深來さんが言われたことを心に留めて、しっかりと頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〇深來登さん

皆さんに本当に大変失礼なことを言ったと思います。市民として、これまで市議会モニターを続けさせていただきましたが、その間に、連合自治会という会の中で市長賞を貰いましたし、県知事賞も貰いました。それはやっぱり、一つは防災、これが一番大切なことだと思うんですね。南海トラフ地震が近いというような問題もありますので、光にどう影響をするのか、どういう対策をとっておけばいいのか、市でも考えておられますけど、私たちも一生懸命になって、被害をどれだけ少なくできるのか考える必要があると思います。今の金沢の近くの方の被災、それから逆の方向の被災、そうしたものに関心を持ちながら、ただ寄付をすればいいというのじゃなくて、どうやったら皆で日本全体で助けることができるのか、そういうことも考えていただければと思います。

〇古賀和人さん

せっかく防災庁舎が立ち上がりました。素晴らしい機能を持っているということで、これはやっぱり、血管と同じように動脈はできたけども、静脈である毛細血管が機能しなければ、防災の本来の機能はしないと思うんですね。

一つの事例として、先日、私たちの自治会の会合でもそういう話が出たんですよ。というのは、天災というのは、いつどこで起こるか分からない、先般の山火事の問題もそうですし、室積ですと峨眉山があり、いつ火災が起こるかもしれません。そういうときに、実際に自治会としての機能はどうなっているのかという質問をしたんですけれど、結果的には絵に描いた餅でした。要するに防災の担当役員として名前が上がっている方に、どういう機能で、どういう時に働き、どういう方法でするんですかと聞いても答えられない。非常に恥ずかしいと同時に我々の自治会は、避難先へどうやってどう行きますか、という話をしたときにも、これは全て自治会任せとなっているという話でした。

こういった問題についても、やっぱり光市全体で、市民の安心安全を守るという位置付けから、行政からの指導も合わせまして、各自治会、あるいはコミュニティに対して、きちっ

とした伝達と、やり方等を含めた形の指導をさられたらいかがかなと思います。自治会によってもやり方が違うようなんで、そのやり方を指導されたらいかがかなと思います。

つい先日も避難場所について、いろいろな質問をしたことがあるんですが、その避難場所にも、いろいろな格差があり、水があったり、食事が出たりとかいう話もありました。こういった問題も、どこでどういう時には、どういう場所に行けばいいとか、そういったきちっとしたものが出来上がっていることが、一番望ましいんじゃないかなという気がするんですね。せっかくそういった防災庁舎ができた以上は、自治会任せということではなくて、ある程度、行政から指導していただけたら、ありがたいなと思うんですがいかがでしょうか。

○司会、仲小路議員

先ほど、中学生との意見交換会の話がありましたが、この防災についてと２つですかね。

○萬谷議員

中学生との意見交換会につきましては、私が広報広聴委員会の委員長をやっていた時に、一回企画をしました。その時は、中学生と光市議会だけではなくＰＴＡも学校の先生もと、ちょっと幅を広げちゃったので、実現できなかったんですけど、それは、やぶさかではない提案だと思います。

それが、中学生が言葉を発するのに対して、先生たちが添削するんですよね。添削しないような、意見交換会ができればいいかなとは、思ってますが、もう広報広聴委員会の委員じゃないので、大変申し訳ないんですけど、昔に取り扱ったということで、ちょっと発言させていただきました。

○古賀和人さん

中学生と言いましたのは、中学生の生々しい意見が出てくるのではないかなと思ったからですが、やっぱり率直な子どもたちが考えていることを聞いて、確かにいいことを言っているなということに、気が付いてくれればいいなと思います。

以前、同じようなことを考えられたということですけど、そこに添削があり、俗にいう校正があって、先生が書き直して、要するに見た目を良くするために、やっているようなことがあるのであれば、できればそういった生の声が聞けて、本当に市のためになる、多分、現実性のある答えを中学生が持っていると思ったので、中学生とのそういった場を持ったらいかがかな、というのを提案しただけのことです。

○仲山議員

自主防災の取り組みが鍵になると、私もそう思っているし、議員の多くがそう考えていると思います。それぞれの住んでいる地域で、少なからず皆さん、関わっていらっしゃると思います。

確かに、指導といいますか、市全体で一定のレベルを上げていきたい、活性化していきたい、活動を活発にしていきたいということ

はあります。その目安になるような、活動を示していくということは大事かとは思いますが、それは、防災所管の方も考えているという話は聞きますので、今後に期待していただければと思います。私たちもしっかりと見守って、働きかけてまいります。

〇関野広史さん

市民の声としてですが、光の花火大会が今年中止になるという決定を聞いたんですが、僕の周りもそうですが、家族も小さい子どもが３人いるんですが、みんな悲しがっています。

どういう経緯でなったのか、予算のこともいろいろあるのかもしれませんが、来年は開催できるようにお願いしたいと思います。市議会の方が市民の代表であるなら、できれば子どもたちがワクワクするものを一つでも奪わないようにしていただきたい。

いろんなものがどんどんなくなって、全然楽しみがないような毎日が続いておりますので、少子化対策もそうですし、できれば、子どもたちがまた、ワクワクするようなことが一つでもなくならないように、決して簡単に諦めないように戦っていただければと、そこだけちょっとお願いします。

３　閉会

副議長あいさつ　小林副議長